

令和5年8月 定例記者会見（報告）

1 日 時 令和5年8月23日（水）13時00分～13時55分

2 会 場 庁議室

3 出席者

<報道機関>読売新聞、山形新聞、河北新報、NHK、YBC、SAY、YTS

<市>市長、秘書広報課長

4 記者クラブからの質問事項

- (1) 中学生の死亡事案について、先月の定例会見でも質問が出され、市長により「今後の対応」について言及がありました。その後の「米沢市」並びに「教育委員会」「学校単位」それぞれにおいて、どのような検証・検討・決定がなされたか、具体的にお聞かせください。
- (2) JR米坂線の復旧について、今月末、新潟県関川村で「米坂線期成同盟会総会」が開かれ、復旧に向けた取り組みが議題となっています。沿線自治体の一つとして米沢市はどのような提案を行う方針かお聞かせください。また、新潟側の自治体の含め、今後復旧に向けてどう働きかけていくのか、併せてお聞かせください。
- (3) よねざわ大花火大会について、民間により長く続いてきた花火大会に変わり、米沢四季のまつり委員会が主催する形となりました。今回の成果と課題、次年度以降への思いについてお聞かせください。
- (4) 米澤上杉城下町マラソンについて、5年ぶりの開催となる大会で、ゲストも決定するなど準備が進んでおりますが、市民への情報発信が現時点では極めて限定的に見受けられます。米沢市がこのマラソン大会を行う理由について改めてお聞かせください。また、休止期間中のコロナ禍も踏まえ、過去の大会とは運営そのものに変化があると考えますが、どのように捉えているかお聞かせください。
- (5) その他

5 内 容

○秘書広報課長

これより令和5年度8月の定例記者会見を開催いたします。記者クラブからいただいた事前の質問に回答させていただき、質疑に入らせていただきます。よろしくお願いいたします。

○市長

今回のご質問は4点ありました。

1点目は、「中学生の死亡事案について、先月の定例会見でも質問が出され、市長により「今後の対応」について言及がありました。その後の「米沢市」並びに「教育委員会」「学校単位」それぞれにおいて、どのような検証・検討・決定がなされたか、具体的にお聞かせください。」という内容です。

まず、「米沢市」全体の対応についてお答えします。8月7日に部長級職員による緊急対策調整会議を開催し、各施設のクーリングシェルターとしての活用を含め、全庁的に熱中症対策について調査・検討しました。その結果、市役所をはじめ、各コミセンやナセBAなど27施設においてクーリングシェルターを8月10日から9月30日まで開設することにしました。

なお、8月15日からは、市内のヨークベニマル4店舗（駅前、門東町、成島、春日）のイトインコーナーをクーリングシェルターとして活用できるようにご協力をいただいています。また、これと並行し、8月10日には、米沢市熱中症対策を策定し、市長以下部長級職員で構成する米沢市熱中症対策推進会議を設置しました。今後は、この体制を基本に全庁的に熱中症対策に取り組んでいきたいと考えています。

さらには、市民向けの啓発として、「熱中症に気をつけましょう」「熱中症が疑われるときの対処法」について毎週末金曜日にSNSで配信し注意喚起を図っているほか、同様の内容のチラシを広報よねざわ9月1日号に合わせ全戸配布する予定です。また、市主催の会議などでも委員や参加者等へのチラシ配布について全庁的に進めているところです。

まだまだ暑い日が続くことが想定されるため、今申し上げたようなクーリングシェルターの開設や市民向けの啓発を継続し、市民一人ひとりの熱中症への意識改革や注意喚起を図りながら、いたましい事案を繰り返さないように熱中症対策に取り組んで参ります。

次に「教育委員会」「学校単位」の対応についてお答えします。「米沢市小中学校熱中症対応ガイドライン」を改定したほか、各学校においては、危機管理マニュアルに熱中症対策を追加すべく現在早急に進めています。主な改定は、暑さ指数の計測と行内の情報共有を徹底するというもの、各校で活動の判断基準や教職員の役割分担を明確化するというものです。また、登下校については、人通り、交通量が少なく、日陰等も少なくひと休みできる箇所がほとんどない三沢地区、田沢地区から通う中学生に対し通学補助の拡充を行い、他の地区についても、地区の状況等に合わせて安全な登下校ができるよう情報収集や検討を進めます。次に地域の見守り体制として、学校か

ら地域の公共施設や民間施設、店舗を含むの事業所に対し、見守りや立寄り所として依頼するほか、配送業者や訪問販売業者等の企業への見守りの協力を依頼していきます。また、市内各所のクーリングシェルターの利用について、学校や児童生徒に周知を図るため、地域学習や熱中症対策の学習と併せた形で実施できるよう早急に進めていく。

各学校における熱中症対策ですが、「スポーツドリンクやペットボトル等の持参を可能とする」「登下校時の暑さ対策アイテムの使用を可能とし、部活動後に空調のある教室等でクールダウンを行ってから、できる限り複数で下校することとする」「下校時に少人数になってしまう地域については、帰宅した旨を学校に連絡する等体制を整備するほか、電動アシスト自転車の使用や保護者の申請により携帯電話の学校への持ち込みも可能とする」「危機管理対応の学習として、自分の身は自分で守る行動をとるために、熱中症の初期症状を学ぶ学習や体調不良を申し出ることができる環境づくりのための指導を繰り返し実施していく」ことになりました。

次年度に向けては、夏季の下校時間や夏季休業の設定等の教育計画・日課の再考、水泳指導の実施時期等の再検討を行い、校長会と連携を図っていくこととしていくところですが、このたびのいたましい事案を繰り返さないためにも、教育委員会として、熱中症対策をはじめとした様々な危機対応に適切に取り組み、児童生徒が安全安心に学校生活を送ることができるよう、的確な情報収集と後手とならないような事前の体制整備を行っていくようにあらためて指示をしたところです。

民間団体においても、児童生徒の身を守る対策を取っていただいています。連携できるところは連携しながら、しっかりと対策していきたいと思っております。

2点目は、「JR米坂線の復旧について、今月末、新潟県関川村で『米坂線期成同盟会総会』が開かれ、復旧に向けた取り組みが議題となっています。沿線自治体の一つとして米沢市はどのような提案を行う方針かお聞かせください。また、新潟側の自治体の含め、今後復旧に向けてどう働きかけていくのか、併せてお聞かせください。」という内容です。

私は常々、災害復旧である前提のもと、一日も早い全面復旧が第一義であると話してきます。米坂線は、災害復旧事業として、JRに一日も早く全面復旧してもらおうことが置賜の総意であると思っておりますので、総会においては、このような考えを示したいと思っております。また、米坂線は、本市にとっても、置賜全域にとっても、通勤通学や観光面で重要な役割を果たしている公共交通機関でありますので、本市の重要事業要望や置賜総合開発協議会の重要事業要望において、その必要性を強く訴えながら、早期の全面復旧に向けた要望活動を引き続き行っていきたいと考えております。

「令和5年度米坂線整備促進期成同盟会総会」については、8月31日に新潟県関川村において開催されますが、当日、本市においては市長、副市長、各部長等による9月定例会の一般質問の答弁検討会があり、残念ながら私は出席できないため、当日出席する担当者には、本市の考え方を伝えたところです。

3点目は、「よねざわ大花火大会について、民間により長く続いてきた花火大会に

変わり、米沢四季のまつり委員会が主催する形となりました。今回の成果と課題、次年度以降への思いについてお聞かせください。」という内容です。

成果につきましては、長年、地元新聞社の主催により開催してきましたが、新型コロナウイルス感染症の影響や主催者の廃業により、令和2年から令和4年までの3年間開催されませんでした。このため、多くの市民や企業、事業所の方々から花火大会の再開を望む声に応え、米沢四季のまつり委員会が主催となって実施したものであります。当日の入込客は、12,000人でありました。花火大会開催後、市民の方々からの反響も大きく、「元気をもらうことができた」、「心が癒された」といった感想をいただいたり、感謝の手紙をいただいたりしたことから、来場された方や会場周辺で見物された方々の心に癒しと活力を与えることができ、地域の活性化の一助になったのではないかと考えております。

また、花火大会の開催により、会場だけでなく、まちなかの飲食店も回遊するなど多くの人で賑わいをみせ、一定の経済波及効果があったものと考えております。

課題についてですが、米沢四季のまつり委員会が主催で初めての開催であり、企画や運営面（会場及び会場周辺の混雑への対応や駐車場の対応、観客への情報の周知など）に課題があり、次回に向けて対策をしていく必要があると考えています。また、次年度に向けて、記念花火の打ち上げや有料観覧席の設置など新たな取組について検討していきます。

次年度以降への思いについては、市民を始め、観覧される方々の心の拠り所となるイベントであるとともに、観光誘客にも繋がるなど、本市の経済や地域の活性化に大きな影響を与えることから、今後も工夫を重ね、市内の青年団体等を始めとする関係団体と連携、協力をいただきながら、本市の夏の一大イベントとして定着するように、継続して実施していきたいと思っております。

4点目は、「米澤上杉城下町マラソンについて、5年ぶりの開催となる大会で、ゲストも決定するなど準備が進んでおりますが、市民への情報発信が現時点では極めて限定的に見受けられます。米沢市がこのマラソン大会を行う理由について改めてお聞かせください。また、休止期間中のコロナ禍も踏まえ、過去の大会とは運営そのものに変化があると考えますが、どのように捉えているかお聞かせください。」という内容です。

まず、本市が「米澤上杉城下町マラソン」を開催する目的についてお答えします。

二つの側面がございます。一点目は、本市で掲げております「目指せ！健康長寿日本一のまち米沢」というスローガンのとおり、多くの市民の皆様の健康増進につなげたいとの考えからであります。コースは2km・5km・ハーフの3種類を設定し、その中に、年齢制限なしで参加できる2kmの健康長寿の部と5kmのウォーキングの部を設け、ランナーはもちろん、普段運動をあまりされない方でも、散歩感覚で気軽に参加していただける内容としています。

もう一点は、県外など遠方からいらっしゃる方々が市内に宿泊し観光等を楽しみながら大会にご参加いただくことで、本市のスポーツツーリズム振興を図りたいとの考

えからです。米沢牛入り芋煮や米沢名産館山りんごの振舞いなどにより、米沢の魅力を積極的にアピールして行きたいと考えています。

過去の大会との運営の違いについてですが、過去にはコロナ禍での開催を中止したり、台風接近で中止したりなどがありました。継続をしていかないと、参加者も少なくなってしまう傾向にあると思います。これからも多くの皆さんに参加していただくよう、参加しやすいコースの設定や周知、健康長寿などの観点からの対応も考えていく必要があると思います。これまでも、コース沿線の地区の皆さんにも協力をいただいてきましたが、市民全体で参加・運営する大会として位置付けできるかが課題となってきます。今後は、第一目的である市民の健康増進、また市内外からの参加者が米沢観光も一体となって味わってもらえるように取組を強化していきたいと思っています。

事前にいただいた質問に対する回答は以上です。

○記者

1点目について伺います。通学路の立ち寄り所や訪問販売会社への呼びかけなど、具体的な対策をお伝えいただきましたが、今はまだ暑いものの、これから暑さが過ぎようとしている中での取組開始はスローではないかと感じました。

○市長

クーリングシェルの開設や民間団体の取組は既に開始しています。

○記者

北海道で小学2年生が熱中症で亡くなりました。熱中症は年代問わずという状態で、小学生への教育も大事になってくると思いますが、「自分の身は自分で」という発言がありました。小学2年生くらいですと、自分の限界が分からないで頑張ってしまうこともあると思います。小学校低学年や幼児も含めた教育も大事になってくると思いますが、いかがでしょうか。

○市長

「自分の身は自分で守る」という発言は、各学校において、熱中症がどういうものか、それに対してどう対策するのかという教育をしていくことで、生徒自身が自分の身を守れるようにする意識を持つことの大切さを述べたものです。小学校低学年、保育園や幼稚園に通う幼児の場合は、保護者・先生・保育士が今回の事案を知っていると思いますので、各家庭・施設でしっかりと学習する必要があると思います。

○記者

1点目について伺います。クーリングシェルターについて、ヨークベニマル以外の施設ではどこが実施していますか。また、ヨークベニマルの4店舗については、通学路上に設置されている店舗でしょうか。

○市長

公共施設のほか、民間ではヨークベニマルが行っています。その他の民間施設については独自に行っているようですが、クーリングシェルターを行っている場所が分かる「見守り110番」のような表示は、今後検討していかなければならないと考えて

います。ヨークベニマルの店舗については、通学路沿線にあるものです。

○記者

中学生は学校にお金を持ち込むことが禁止されていると伺っています。クーリングシェルターに立ち寄っても飲み物を購入することができない場合は、市で給水器を設置するなど、そういったことはしていますか。

○市長

今のところ、そういったことはしておりません。ご意見をいただき、考えていかなければならないと思います。学校にお金を少し持つていくことが禁止されているかも確認をしていき、そのような場合には、今後の対応を考えていきます。

○記者

現時点での、教育委員会の対応についての市長の考えを聞かせてください。

○市長

中学生が熱中症で亡くなってしまうことは、もう2度と起こしてはならないものだと思います。米沢市全体として取り得る対応は、しっかりと行っていかなければなりません。難しい部分については、民間の皆さんと連携しながらとは考えているものの、具体的な対処方法を取るまでに至っていないのが現状です。しかし、問題意識を市民の皆さんがお持ちになったと思います。市民の皆さんの協力体制もしっかりと図りながら、今後こういったことの無いように、十分な熱中症対策を取っていきたいと思います。

○記者

今回の教育委員会が示した対応は、裏を返せば今までできなかったことです。ペットボトルが持ち込めなかったり、遮熱性の高いヘルメットを使えなかったりした実態を聞いて、市長はどのように考えましたか。文科省が「校則はホームページなどで公表することが望ましい」としているのですが、市や学校のホームページでは確認することができませんでした。学校の決まり事が表に出れば、専門家の指導を受けることができるのではと思うのですが、このことを指導する考えはありますか。

○市長

国が示した基準であれば、公表をする必要があると思いますが、私も今初めて知ったので、今後、教育委員会にお話をしたいと思います。

○記者

2点目について伺います。この1年間で状況が動かないというのは、いかがでしょうか。

○市長

私たちとしましては、これまで国やJRにお願いをしてきたところです。その後、全体の復旧総額86億円という数字が出されましたが、その先のことが進んでいません。この金額をどうしていくかとい話が一步も進んでいないことは事実です。災害復旧という観点から、国やJRが責任を持って復旧の方針を出すことが一番の課題であると思っています。今後も、何よりも全面復旧を訴えていきたいと思っています。

○記者

3点目について伺います。花火、紅花まつり、肉の陣など、大きく夏祭りだと思えますが、これらの連動やブラッシュアップという点はいかがでしょう。

○市長

いままで、四季のまつりといった中で、夏のイベントが少し弱かったと思います。そこに、花火大会・紅花まつりをメインとして、米沢青年会議所や商工会議所青年部などが行っている事業、これまで行ってきた関連事業を四季のまつり実行委員会として「夏まつり」として捉えているところです。今後、どのようにブラッシュアップしていくかという点については、紅花の世界農業遺産認定を契機としてもっと多くの皆様に興味を持っていただいて、イベントの方向性が変わってくることもあると思います。花火大会は、今年初めて四季のまつりとして開催したため、今後課題について対応を考えていき、多くの観光客にきていただけるような夏のイベントとしてブラッシュアップしていきたいと思います。

○記者

4点目について伺います。参加ランナーのみならず、市民による応援や観光事業の観点などから、市全体として、どのように大会を盛り上げる土壌を作っていくのかお聞きかせください。

○市長

これまで4回中断したことから、今回が初めからのスタートだと考えています。今回は多くの皆さんが参加できるコースの設定もありますので、市民の皆さんの応援なども含めて、まずは一度開催してみてどうだったか考えて、今後の対応を検討しなくてはならないと考えています。

○記者

その他について伺います。春先に出ていた映画のお話は、どうなっているでしょうか。

○市長

お盆の終わりごろに配給元から記者発表があると聞いていましたが、今の時点で連絡がないということは遅れているのかも知れません。私としても早めに記者発表できるように申し入れをしたいと考えています。

○秘書広報課長

これを持ちまして令和5年度8月の定例記者会見を終了いたします。